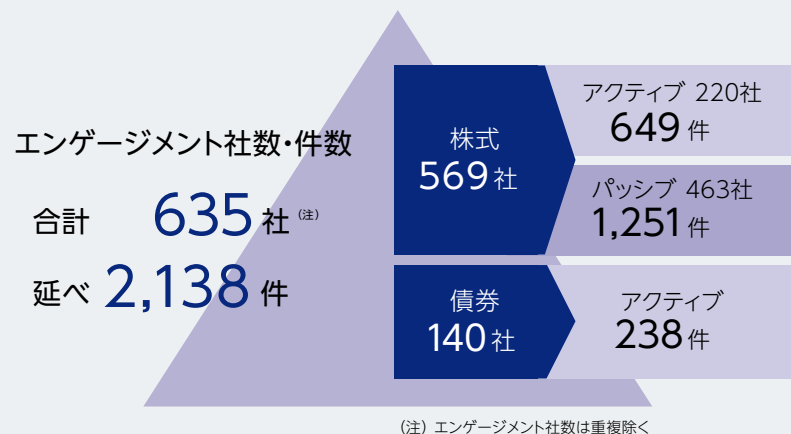


国内企業へのエンゲージメント

エンゲージメント集計

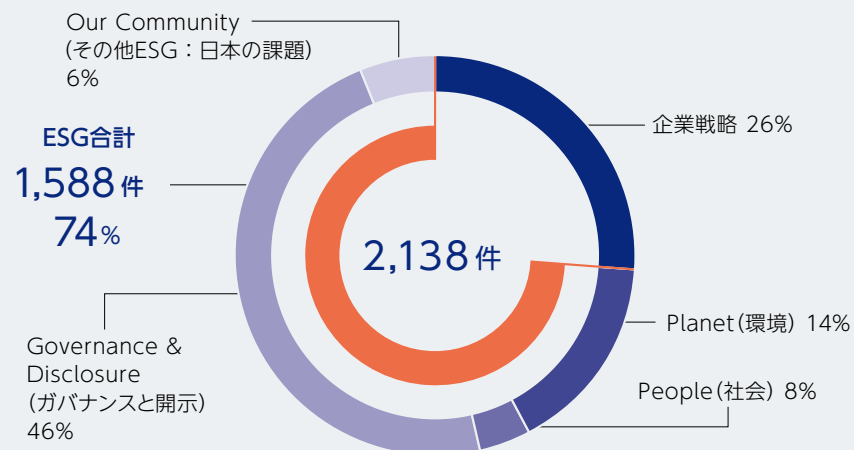
■エンゲージメント実施状況(2022/7~2023/6)

パッシブ戦略、アクティブ戦略双方の観点から、TOPIX時価総額で8割以上の企業と質量とも充実したエンゲージメントを行いました。



■エンゲージメントテーマ別構成比

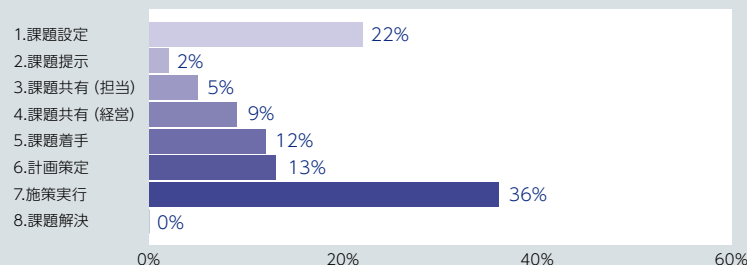
18のESG課題を含む21のエンゲージメント課題を設定し、エンゲージメントを実施しています（課題の内訳についてはP.30ご参照）。全体に占めるESGに関するエンゲージメントの比率は74%となりました。



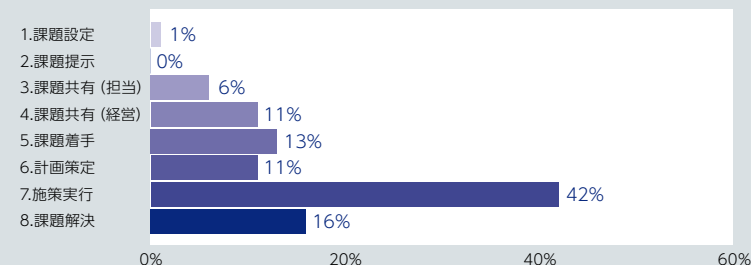
■エンゲージメントの成果

当社では、8段階のマイルストーンを用いて、エンゲージメントの進捗を管理しています（P.30ご参照）。昨年度のエンゲージメント活動においても、順調な進捗が見られました。特に、サステナビリティ経営や気候変動を中心に課題解決を実現しました。

2022年4月初 マイルストーン (期中追加含む)



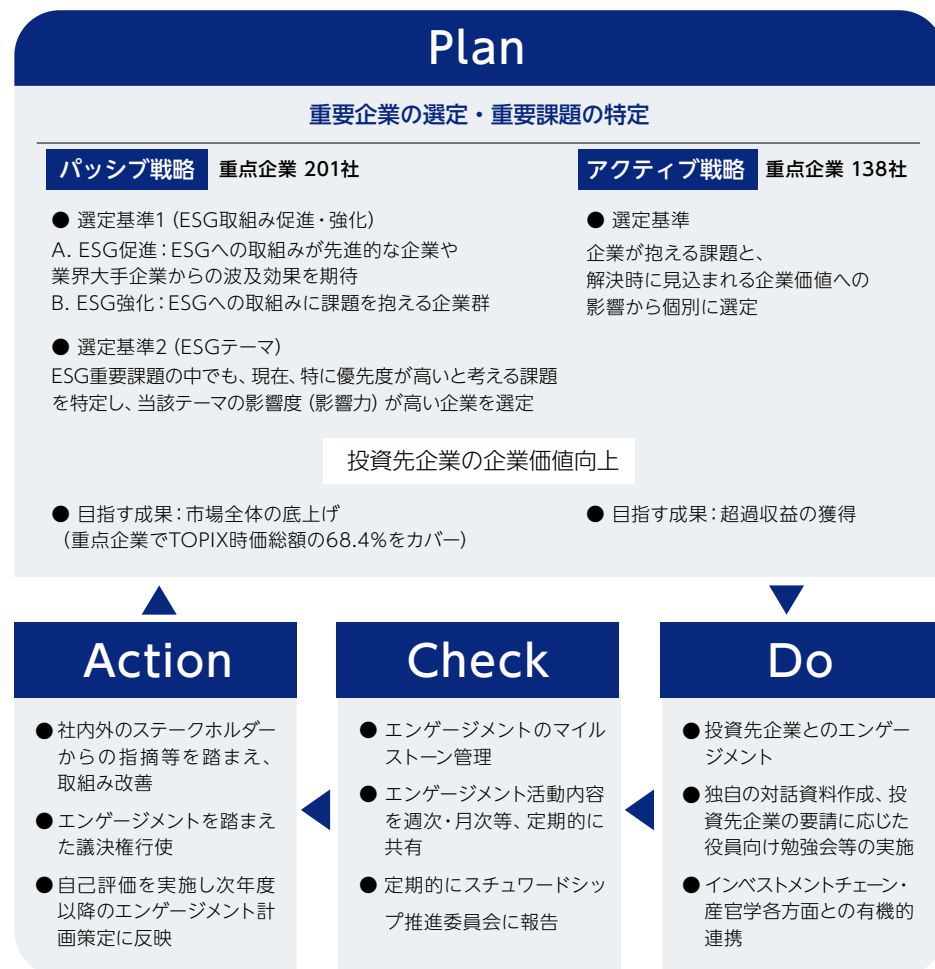
2023年3月末 マイルストーン



国内株式のエンゲージメントプロセス

エンゲージメントの実効性向上

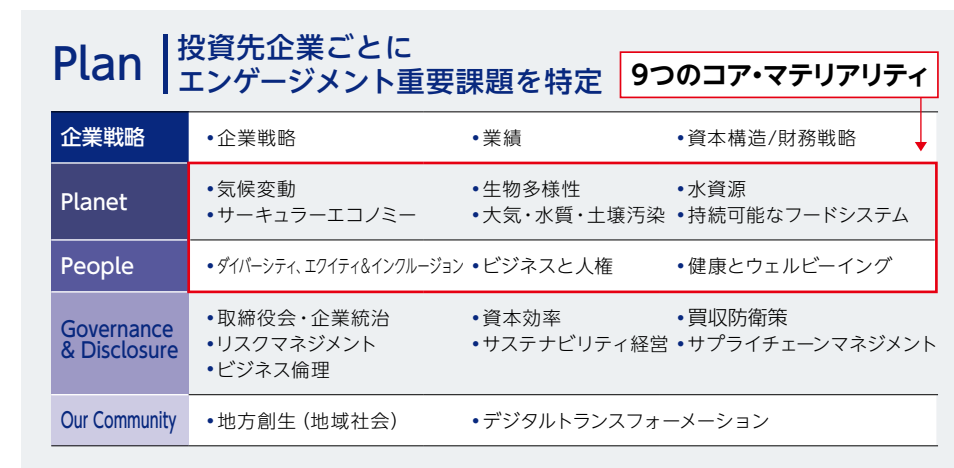
当社では、アクティブ戦略・パッシブ戦略それぞれの視点から重点企業を選定し、投資先企業ごとに重要課題をあらかじめ特定した上でエンゲージメントを実施しています。年度の初めに作成するエンゲージメント計画に基づき、以下のPDCAサイクルをしっかりと回すことにより、エンゲージメントの実効性を高め、投資先企業の企業価値向上を運用パフォーマンスの向上につなげています。



8段階のマイルストーンでエンゲージメント活動を管理

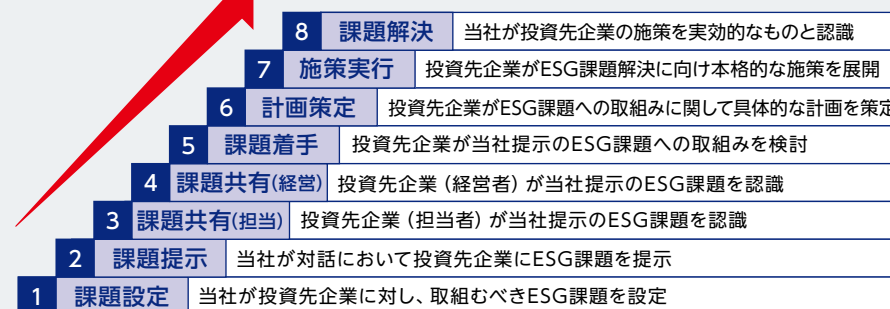
実際のエンゲージメント活動は、投資先企業ごとに企業価値向上に向け設定したエンゲージメント重要課題 (18のESG課題を含んだ21課題) を提示・共有するところからスタートします。

実施後は、対話内容をすべて記録し、その進捗状況を8段階のきめ細やかなマイルストーンで管理することにより、エンゲージメントの実施状況を見える化し、更なる取組みの高度化を図っています。



Check | 8段階のマイルストーンできめ細かく管理

確実な成果へ!



国内株式エンゲージメントの特長

アセットマネジメントOneでは、投資先企業とのエンゲージメントにおいて、環境・社会課題の解決を如何に企業価値向上につなげるか、という各企業の価値創造ストーリーの納得性を高めることを重視しています。事業環境が大きく変化する中、投資先企業の将来的な企業価値向上の確信度を高める上で、「目指す姿」とそれを実現するための「マテリアリティ」への取組みがカギになると考えています。経営陣の方々とのエンゲージメントで、「10年後、30年後、50年後も御社は輝いていますか?」と長期投資家として究極的な質問をさせて頂くことがあります。一般的には、「存続すると思うが、今のままではいけない。」との回答がほとんどです。「今のままではいけないのはどこか?」、「どうしなければいけないと考えているのか?」、エンゲージメントのポイントはまさにそこにあります。長期の目指す姿／ビジョンの明示を促し、将来の目指す姿からバックキャストにより「企業価値向上に向けて、今何が必要か?」、「真のマテリアリティ」について議論を深めています。

エンゲージメントの考え方・こだわり

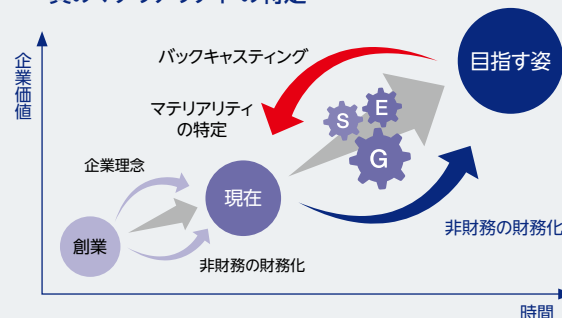
■ 価値創造ストーリーの納得性を重視

価値創造ストーリーの納得性を高めるためのポイント

- ① 価値創造を図る前提としての課題設定力や経営者の先見性
- ② 価値創造プロセスの持続性やマテリアリティに関する優先順位の有無
- ③ 実際の価値創造を支える財務と非財務の整合性や一貫性

企業と投資家の対話ツールである
統合報告書等によりしっかりアピールされていることが肝要

■ “真のマテリアリティ”の特定



■ リスク・リターンの観点と重点確認事項

リターンの観点

社会課題の解決を自社の収益獲得機会と捉えて、「企業価値創造」や「市場創造」に結びつけているか。

表裏の関係

リスクの観点

企業の持続的成長を阻害する可能性がある要因として、環境や社会などの視点からどのような要因を認識し対策を講じているか。

重点確認事項

- ① ESG活動が経営の中核に位置付けられているか。
- ② 持続的な発展を目指すための「投資」として位置付けられているか。
- ③ 新たなフロンティアに挑戦するための自主的取組みとなっているか。

エンゲージメントの実効性向上に向けて

■ 詳細な独自資料に基づく課題認識の共有

実際のエンゲージメントにおいては、ESG課題の把握・認識の共有が重要です。当社では、投資先企業の非財務情報を分析した詳細な独自資料を作成し、一歩踏み込んだ建設的な対話を実施しています。



■ 企業価値向上への貢献

マテリアリティに関する議論を深めることにより、投資先企業に新たな着眼点を提供し、企業の中に潜在的に埋もれていた問題意識を顕在化させ、企業価値向上への前向きな取組みを支援しています。

新たな着眼点

問題意識の顕在化

潜在

企業の中に埋もれている問題意識

AM-One
との
対話

顕在

企業価値向上の課題として認識

なるほど!!